

平成24年度 海外貿易会議（宇宙）報告

（アゼルバイジャン共和国訪問）

経済産業省が主催する平成24年度の貿易会議が平成25年2月26日から2月28日までの3日間にわたり、アゼルバイジャン共和国バクー市において開催された。

これまで経済産業省主催による海外貿易会議（宇宙）（以下、貿易会議）では、パッケージ型インフラ輸出の促進を目的として、アフリカ、南米、アジア地域等を訪問し、相手国政府関係機関、企業等との意見交換を実施し宇宙分野における協力の可能性を探ってきている。

また、平成25年1月に宇宙開発戦略本部で決定された「宇宙基本計画」においても、政府として我が国宇宙産業における海外展開への積極的な支援の重要性や、相手国ニーズに応えるパッケージ型インフラの海外展開への推進等が明記されている。

以上のような背景のもと、平成24年度はアゼルバイジャン共和国を訪問した。同国は2012年をICT年（情報通信技術年）として宣言し、2013年2月7日に初の通信衛星（Azerspace）を打上げ、宇宙技術を含めたICTへの取組みが進められている。

このような状況から、通信衛星打上げ成功の3週間後にあたる今回の貿易会議ミッションの同国訪問は時宜にかなったものとなった。以下その概要を報告する。

1. はじめに

今回の訪問では、日本側から（一社）日本航空宇宙工業会 宇宙委員会 委員長である三菱電機株式会社 笹川隆専務執行役を貿易会議団長として、主催者である経済産業省 宇宙産業室 武藤寿彦室長以下、宇宙関係団体、衛星メーカー、ロケットメーカー、宇宙利用関連企業、商社等、15企業・団体から総勢21名が参加した。

参加企業・団体は以下の通り。

- ・経済産業省
- ・独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
- ・財団法人 宇宙システム開発利用推進機構
- ・一般財団法人 リモート・センシング技術センター
- ・三菱電機株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・三菱重工業株式会社
- ・株式会社IHI

- ・株式会社IHIエアロスペース
- ・株式会社パスコ
- ・有人宇宙システム株式会社
- ・財団法人 日本宇宙フォーラム
- ・三菱商事株式会社
- ・住友商事株式会社
- ・一般社団法人 日本航空宇宙工業会

2. アゼルバイジャン共和国概要

2.1 国情

アゼルバイジャン共和国、首都はカスピ海西岸に突き出た半島に位置するバクー市。1991年に旧ソ連邦から独立した人口930万人（2011年国連人口基金データ）、北海道をやや上回るほどの広さを持つ国である。

政情は比較的安定しており、外交面では、一部の地域においてアルメニアとの領土問題を抱えているが、周辺国に配慮した外交を行っている。2011年には国連安保理非常任理



アゼルバイジャン共和国の位置（Googleマップより）

事国に選出されている。

我が国とは経済と教育面で関係がある。両国政府は定期的に日・アゼルバイジャン経済合同会議を持ち、2010年には東京で開催された。また、バクー国立大学における日本語講座の開設、一部中等教育機関における日本語教育や留学生の受け入れ等、少なからず日本との交流が行われている。

現状、産油国として経済的には石油／天然ガスへの依存度が高く、非石油分野の育成が課題となっており、環境分野や観光産業への取り組み、さらには2012年に「ICT年（情報通信技術年）」が宣言されICT分野への取り組みがなされている。

民族文化としてはトルコ圏に近く、国民感情として親日的であり、日本の技術力への高い尊敬が宇宙分野に限らず他の分野（ロボット、エレクトロニクス等）への関心につながり、日本企業による現地企業への投資と現地への工場進出を期待する声も聞かれた。

2.2 宇宙への取り組み

アゼルバイジャン共和国はソ連邦の時代から宇宙活動に関わっており、現在は通信情報技術省傘下の国営企業Azercosmos社が中核となり、宇宙開発体制を構築している。また、

防衛産業省傘下の宇宙技術／産業基盤に関する研究開発部門であるANASA（Azerbaijan National Aero-Space Agency）では、リモートセンシング、環境モニタリングなどの調査、研究が行われている。

同国は、旧ソ連時代からの脱却を目途に欧州、米国との連携を重視している。同国初となる通信衛星（Azerspace）は、中央アジアを中心とする通信サービス及び衛星放送の提供による収益確保を狙いとしてAzercosmos社により調達され、衛星は米国のOrbital Sciences社により製造、仏国のArianespace社により、2013年2月7日ギアナ宇宙センターから打上げられた。今後、軌道上試験完了後に、通信情報技術省／Azercosmos社へ引き渡される。なお、同衛星の国際入札には、ロシアと組んだ日本企業も参加したが落札には至らなかった経緯がある。

通信衛星の打上げに伴い、バクー市郊外に衛星コントロールセンターが建設され、Azercosmos社により運用管理されている。

同国では、今後2016年までに2機目の通信衛星や地球観測衛星の打上げが計画されており、宇宙の活用をはじめとするICT（情報通信技術）を石油／天然ガスに続く中核産業に育成しようとしている。

3. 貿易会議概要

今回、日本からの宇宙関連企業がアゼルバイジャン共和国を訪問するにあたり、同国で初めてとなる官民合同の訪問団への現地の歓迎ぶりが日本大使館を通じて伝えられた。また宇宙ワークショップ等の準備においても現地日本大使館が積極的に関与したことも幸いし、非常に友好的に受け入れて頂いた。

このため今回の訪問期間中、現地日本大使館渡邊大使同行のもと、経済産業省宇宙産業室武藤室長及び笹川団長が同国政府首脳であるシャリホフ副首相（前述の日本・アゼルバイジャン経済合同会議のアゼルバイジャン側代表）、通信情報技術省大臣、非常事態省副大臣への表敬訪問が行われることとなった。

以下、今回の主要行事である宇宙ワークショップ、宇宙関連施設見学についてその概要を報告する。

3.1 宇宙ワークショップ

日本－アゼルバイジャンの宇宙分野における交流、意見交換の場として、2月27日、28日の2日間にわたり、バクー市内のホテルにて宇宙ワークショップを開催した。

アゼルバイジャン側からは通信情報技術省、非常事態省、外務省、農業省、産業エネ

ルギー省、文部省、国立科学アカデミー、国立航空アカデミー、バクー国立大学など24機関から50名程度が参加した。また、報道関係のカメラ8台が会場に入り、アゼルバイジャン通信情報技術省大臣、笹川団長、渡邊大使への個別インタビューが翌朝のTVニュースで報道されるなど、宇宙ワークショップへの期待と宇宙分野への感心の高さが伺えた。

日本側からは21名の訪問団に加え、在アゼルバイジャン日本大使館、及び伊藤忠商事、三菱商事の現地法人駐在員他10名の参加を得た。

宇宙ワークショップ開会にあたり、以下5名より挨拶頂いた。

- ・貿易会議 笹川団長
- ・通信情報技術省 Mr. Ali Abbasov 大臣
- ・在アゼルバイジャン日本大使館 渡邊大使
- ・経済産業省宇宙産業室 武藤室長
- ・Azercosmos社 Chairman
Mr. Rashad Nabiyeve氏

以下、両国の代表者による挨拶の概要を示す。

【貿易会議 笹川団長（日本側）】

今回の宇宙ワークショップ開催にあたり、両国政府関係者に謝意を表すと共に、2月7日



挨拶者の方々



ワークショップ会場における報道の様子



挨拶する貿易会議 笹川団長

のAzerspace打上げ成功への祝意を表明した。

続いて、日本の宇宙分野における衛星、輸送システム等の主要技術について紹介し、今回の宇宙ワークショップが情報交換の良い機会であり、両国の相互理解と宇宙産業の発展に貢献できることを期待していると述べた。

【通信情報技術省 Mr. Ali Abbasov 大臣（アゼルバイジャン側）】

日本からの訪問団に対する歓迎の挨拶に続いて、今回の宇宙ワークショップが両国の協力につながることに期待すると述べた。

また、アゼルバイジャンの目標として、今回の通信衛星の打上げに続いて2機目の通信

衛星、初号機としての地球観測衛星の打上げ計画があり、非資源分野の育成が課題であり、情報通信分野は重点分野の一つであると述べた。

2日間にわたる宇宙ワークショップでは、日本側から、宇宙政策4件、宇宙産業5件、宇宙関連産業5件の技術、活動等の紹介を行った。

アゼルバイジャン側からは3機関からのプレゼンテーションとして、AZPROMO (Azerbaijan Export and Investment Promotion Foundation：海外からの投資や輸出の促進を行う機関) から同国の経済財政状況や経済目標について紹介された。また、Azercosmos社(通信情報技術省傘下の国営企業) から同社の位置づけと取り組み内容について紹介された。最後に、ANASA (Azerbaijan National AeroSpace Agency：防衛産業省傘下の宇宙関連の研究開発機関) から海外機関との協力関係や航空宇宙技術に関する研究開発状況等について紹介された。

以下、アゼルバイジャンの代表的宇宙機関であるAzercosmos社の紹介内容を記す。

- ①Azercosmos社は、2010年の大統領令によって通信情報技術省の下に衛星の管理運用を担う機関として設立され、従業員の70%以上は海外の大学出身者である。
- ②同社は今回打上げられた通信衛星の調達機関であり、衛星は現在順調に軌道上試験を実施中で3月には完了する予定。また、衛星の運用・管理のため、バクー市に衛星コントロールセンターを建設、ナヒチェバン自治共和国 (Nakhchivan, Azerbaijan) にはバックアップセンターが建設されている。
- ③今後、衛星通信／データ伝送／衛星放送サービスを開始すると共に、地球観測衛星の打上げ計画を進めている。



Abbasov大臣と渡邊大使



宇宙ワークショップの会場の様子

3.2 衛星コントロールセンター見学

2月28日午後、Azercosmos社が管理する衛星コントロールセンターを見学した。

場所はバクー市の中心街からバスでおよそ1時間、人里離れた丘陵地帯に位置している。

周辺には人家もなく、ポツンとセンター建屋2棟が立っている。

政府関係機関の施設だけにセキュリティは厳しく、見学予定者の照会を事前提出の名簿と当日パスポートにより行い、ゲートをくぐり、先ず運用関連の設備が入った建屋に案内された。写真撮影が禁止されており外観を示

すことはできないが、デザイン会社によってデザインされたとのことで、モダンな造形の施設である。

今回打上げられた通信衛星のコントロールセンターとしての機能を持っている施設であるが、本格運用を控えて、各種調整を行っている様子が伺える（残念ながらそうした部屋への立ち入りは禁止された）。

続いて、となりの建屋に案内された。ここには衛星コントロール用の2基の大型アンテナが設置され、建屋の中には制御機器が並べられている。ここでも数人が調整作業を実施



大使公邸における日本大使館主催レセプションにて

している。

この施設には同国のアリエフ大統領も視察に訪れており、宇宙分野への期待の高さが伺える。

4. 所感

今回の訪問国であるアゼルバイジャン共和国は、宇宙分野進出の途についたところであり、この時期に日本の宇宙ビジネスを紹介できたことは、今後の同国の宇宙ビジネス拡大に対して日本として寄与できる可能性がある。その意味でも今回の訪問は、そのスタートとしての情報交換の場として、両国にとっ

て有意義であったと言える。

一方で、本誌冒頭で述べたパッケージ型インフラ輸出促進のため、両国の関係をさらに具体的に拡大していくためには、関係省庁、企業等による継続的なフォローアップが重要であり、SJAC会員企業におかれては、今後とも積極的な参加・支援が期待される場所である。

最後に、今回の貿易会議において、経済産業省並びに在アゼルバイジャン日本大使館には各種調整を実施頂き、今回のミッションが成功裏に完了したことに対して感謝申し上げます。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部長 小島 光喜〕